

サイバー攻撃が繰り返されるケースが増加中!!

2022年もランサムウェアに細心の注意を

オリンピックイヤーが終わり、2022年を迎えたが、依然としてランサムウェア(身代金要求型ウイルス)が猛威を振るっている。今号では「HPセキュリティエキスパートおよびアドバイザー」による、2022年に注目すべきサイバーセキュリティの予測などを参考に、その最新動向と対策について考えてみたい。

データの流出や公開のほか ファームウェアへの攻撃も拡大

2021年末に公表された「HPセキュリティエキスパートおよびアドバイザー」による、2022年に注目すべきサイバーセキュリティの予測(本コーナーの2021年11月号に登場したイアン・プラット氏もセキュリティエキスパートとして参加)をチェックしてみた。すると、ここでは①ソフトウェアサプライチェーン攻撃の商品化がすすみ、より多くの著名人が標的になる②ユーザーを脅かすランサムウェアギャングが攻撃を繰り返す③ファームウェア攻撃の武器化により参入が容易になる④ハイブリッドな働き方とスポーツイベントによりユーザー攻撃の機会が増加する、といったことが指摘されていた。

なかでも注意したいのがランサムウェアによる攻撃だ。昨年

などが被害を公表している。ちなみに小誌編集部調べによると、21年にランサムウェアの被害を公表した企業の数は24社に上り、不正アクセスと公表されたケースはさらに84件に達する。当然、その攻撃方法も多岐にわたっており、たとえば小森コーポレーション米国子会社ではサーバー内のデータが暗号化されたうえで、データの一部が外部サイトで公開されてしまった。こうした状況に加え、長年にわたってセキュリティシステム

の提案を行ってきた(株)プロード(東京都千代田区)は、冒頭のHPの指摘について「大企業にかぎらず、中堅・中小企業が保有する顧客データなどがターゲットになる可能性が拡大している。また、いったん攻撃が成功すると、セキュリティ対策が甘い標的とみなしてサイバー犯罪者たちが連携し、複数の方法や技術で攻撃を繰り返すこともある」といった点に注目。さらに、ファームウェア(機器に内蔵さ

れるソフトウェア)に対する攻撃についても強調する。事実、「ファームウェアに関するセキュリティが軽視される傾向があり、セキュリティ上の脆弱性があってもパッチ(修正プログラム)などを適用していないケースが考えられる。ファームウェアが侵害を受けると、OS(基本ソフト)の再設定では解消できない問題につながることもあるので注意してほしい」とプロードは警鐘を鳴らしている。

**他人事ではすまない
医療機関のサイバー被害**

他方、21年12月29日付の『読売新聞』によると、16年以降で国内の11病院(そのうち21年に5件が集中)がランサムウェアの被害にあっており、救急搬送や手術に支障がおよんだ例もあったという。今や医療機関で電子カルテなどを使用するのは当たり前だし、そうした医療情報は身代金の対象としての価値が非常に高い。だがその反面、セ



**今までの「常識」は、
すでに「非常識」!**

もう無駄な時間と費用は「0」にしましょう

hp HP Sure Click Enterprise

powered by **Br Bromium**

おかげさまで Bromium は HP Sure Click Enterprise に進化しました

エンドポイントのサイバー対策に関する費用や専門家は、もう必要ありません。
100%* 防御し、レポートします。是非プロードにお問い合わせください。

*2013年以降、Bromiumは推計20億以上のMicroVMが実行されましたが、侵害報告件数はゼロです。(Bromium社調べ)

詳細は [BROAD Security Square] で ... <https://bs-square.jp/columbus>

株式会社プロード 〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-30 サウスビル永田町7F
TEL: 03-6205-7463 (代表)

